

黒部を未来へつなく



< ご挨拶 >

皆さんこんにちは。毎日暑い日が続いておりますが、お変わりなくお過ごしでしょうか。

私、成川まさゆきは、本年10月31日で議員10年となります。これも地域の皆さんに支えられ活動が出来たこそだと思っています。自分なりに黒部市の発展と市民の幸せを第1に考えて、どうやったら今の課題を拾い上げて、解決に結びつけることが出来るのか、黒部の未来を担う次世代に繋げることが出来るのか、そう思い続けて10年間走り続けてきました。

しかし、10年間の議員活動で思い通りにまちは変わったのかと言われれば、そうじゃない現実があります。今までの10年を振り返りながら新たな挑戦で、これからの10年間を突っ走っていきたく思います。

黒部を未来につなく 成川まさゆき



まさゆき KENBUNROKU MANABINOJIKAN 見聞録「学びの時間」



3月27日 参議院会館
総務省レクチャー

5月5日
谷浜鉄見デッキ



5月16日 東京都狛江市
防災3Dマップ



6月27日
自治体・公共Week2024



ありがとうございました。2024.6.23

成川まさゆき感謝の集い 特別講演会



2024.06.23 パレス扇寿に於いて
「成川まさゆき感謝の集い」を開催いたしました。

特別講演会として
「澁澤榮一に学ぶ志と確保～都心と地方を繋いで国を強くする」

【プロフィール】

澁澤 久栄 (Hisae Shibusawa)

- ・大阪サニタリー株式会社 経営戦略室所属
- ・社外取締役：(株)JFLA ホールディングス
- ・顧問：センコーグループホールディングス(株)、アサヒフード株式会社、オロル株式会社
- ・元農林水産省職員(国際担当)
- ・米国のUCLAへの留学経験を活かし、米国政府系の医療センターに勤務
- ・退行後、一般社団法人日本GAP協会を経て現職。日本、並びに国際食品安全に尽力。
- ・連続には、「近代日本資本主義の父」と言われた澁澤榮一がいる。

地方議員 養成講座 スタッフ募集

「まちのために何かしたいと考えている方、議員になってみませんか。」

今、地方議員の養成講座立ち上げ(今秋)を検討しており、その準備のためにボランティアスタッフを募集しております。一緒に立ち上げていただける方、気になる方がおられましたら、成川までメッセージください。詳細をお伝えします。この養成講座参加者の条件としては、政治信条や思想は関係なく、志があって自分の為ではなく、まちを良くしたいと思っている方としたいと考えておりますので、その条件を了承して携わっていただける方に限ります。

なりかわ 黒部を未来へつなく 成川まさゆき

黒部市議会議員
facebookで活動公開中!



議会報告 3月定例会 自民志創会の代表質問を行いました。

- 1. 本市の経済動向について
- 2. 防災対策について
- 3. 観光振興について
- 4. 自然と共生し、安全で安心して暮らせるまちづくり
- 5. 地域の活力を生み出す産業育成のまちづくり
- 6. 都市基盤の充実した住みやすいまちづくり
- 7. 健やかで、笑顔あふれる、めくもりのあるまちづくり
- 8. 市民と行政がともに支えるまちづくり

能登半島地震の教訓から「子どもたちの防災知識の向上について」

能登半島地震の際には、多くの方が避難した小中学校。そこに通う子どもたちが避難所開設運営の力にならないのかと考え、子どもたちに防災に関心を持ってもらうように出前講座の開催を提案しました。

「災害時のトイレ確保について」

地震などの災害の際に重要なのはライフラインの確保です。ガスはガスコンロ、水道は給水車やペットボトル、電気は自家発電機、食料も非常食で賄えます。しかし、トイレは、代替えが無いと言われ、避難所が開設されると多くの方の利用が出来るようにしないといけない等、一番重要視されるべきものであると訴えました。

それに対し先ずは、避難場所運営で使用する防災備品を事前に見たり使ったりする機会を提供し、災害時にどう行動すればよいかの情報提供を検討すること。トイレはマンホールトイレを5セットと1セットで100回分の使用が可能な簡易トイレ79セット分を備えており、一定期間の被



災地職員派遣時に簡易トイレを持参するなど、移動にも対応が可能なことから、災害時における備えとして、必要に応じた数量確保に努めるとの答弁でした。

能登半島地震で経験から学んだ事を次に生かす取り組みをする必要を感じます。

「都市公園を楽しい場所に」

本市で昨年11月にパークPFIの導入に向けたアンケートを実施しているが、その結果と導入の考えはあるのか。子供達が屋外で元気に遊べる冒険遊び場（プレーパーク）の設置の提案をいたしました。

それに対し、結果は、「子どもを遊ばせる」「レストランやカフェ等の飲食店、売店」「ゆっくりと本を読んだり、カフェを楽しんだりできること」があったら良いと思う事で、民間活力導入の可能性等を探るため、今後、民間事業者から広く意見、提案を求めるサウンディング調査を実施するとの事。

また、『冒険遊び場（プレーパーク）』の設置については、本市には、整備した専用施設は無いが、同様の活動は、市内においても様々な団体によって実施されているものと認識しているとの答弁でした。

市内には都市公園が沢山ありますが、上手く活用されているのが疑問です。プレーパークなども含めて色々な取り組みで行きたくなる公園になって欲しいなどと思います。



「まちなか保健室について」

まちなかに歩く人が増えれば、賑わいが出来ると同時に、その方々が気軽に立ち寄れる場所、病気になる前に健康について気軽に相談できる場所として、まちなか保健室を整備出来ないのか

今後、健康増進課、福祉課との連携の強化に加え、社会福祉協議会にもより多くの協力を頂きながら、相談しやすい体制づくり、相談を受けた後に、必要により専門機関につなぐ体制づくりに向けて、取り組んでいくとの答弁でした。

買い物ついでに健康診断、街中に用事を作る、そうになったらどうなるんだろうと思いました。



皆様のご意見をお気軽に是非、お寄せください

後援会
連絡先

成川正幸（なりかわ まさゆき） TEL (0765)57-1189
黒部市植木 107-7 FAX(0765)57-1189
携帯 090-1317-7155 Mail : masa.narikawa@gmail.com

ホームページ



6月定例会 個人質問を行いました。

- 1. 観光振興について
- 2. 地球温暖化防止の取り組みについて
- 3. 人口減少対策について

今こそ観光振興を進めるべき

①プランは観光局、実行は事業者。調査研究で長期計画などを策定していくのは行政だと考える。誘客のためにも観光データを今後生かして欲しいと提案しました。

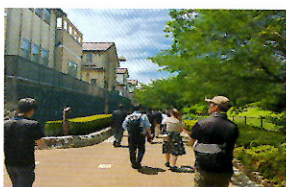
本市が独自で行ってきた宿泊施設でのアンケートと県のトイトスの結果が、概ね同結果が出ていることが確認された事から、宇奈月温泉宿泊施設でのアンケート調査を廃止し、トイトスの分析データの活用とリーサスや観光予報プラットフォームなどのオープンデータ活用で着地型旅行商品の開発や効果的な観光プロモーションに繋げていきたい。



トイトスの結果が、概ね同結果が出ていることが確認された事から、宇奈月温泉宿泊施設でのアンケート調査を廃止し、トイトスの分析データの活用とリーサスや観光予報プラットフォームなどのオープンデータ活用で着地型旅行商品の開発や効果的な観光プロモーションに繋げていきたい。

②フィルムコミッション等のロケ対応が出来る体制整備を訴えました。

現時点で、市独自で立ち上げる考えはないが、今後も観光客誘致に繋がる取組の一つとして、県ロケーション オフィスと連携していきたい。



神奈川県鎌倉市 ロケ誘致

の質問に対して、

黒部宇奈月キャニオフルートが開通出来ず、観光振興が足踏みしている感がありますが、今こそ、次の手を打っていく必要を感じています。動けば変わります！

生活圏域の入善町と朝日町の2町が「消滅可能性自治体」に入った。本市においても今後が厳しいと思わざるを得ない状況ではないか。

2021年7～8月に実施した市民アンケートで、本市に愛着を感じている割合も住み続けたい割合も減少している事から、

- ①アンケート結果（本市への愛着と住み続けたいなど）をどうとらえているのか。
- ②保育所、放課後児童クラブに移住者枠を設けるなどで、

いつの時期にでも黒部市に来てくださいという姿勢を示す事は出来ないのか、以上について質問しました。

本市の地球温暖化防止の取組は進んでいるのか？

令和6年2月21日、黒部市ゼロカーボンシティ宣言がされました。本市が国際都市を目指すなら必要な施策だと考え、

- ①実行計画（区域施策編）策定作業における市民や事業者などの巻き込み方は。
- ②グリーンインフラの推進を図ってはどうか。
- ③「SDGs 未来都市」に本市も目指しては。

以上について質問しましたが、

本市が国際都市を目指すのであれば、地球温暖化防止対策は重要な施策になると思っています。



福島県須賀川市 地球温暖化防止

「仕事をしなから子育てができる仕組みづくり」を推進し、移住しやすいまちをめざすことが、転入者を増やすことに繋がっていくのではないか。

③寛容なまち黒部の施策を充実させ、シティプロモーション推進の計画や方針の策定の考えはないか質問しました。

地域の凝集性が高く、寛容性が低い地域ほど、人口が減少する。特に女性に強く影響するそうで、保守的、過度な強制・団結は住みづらく、黒部市の人口を維持していく上で重要になってくると考えます。



寛容なまちとは、例えば、性別や年齢、障がいの有無などが気にならない、考えの違う人を排除しない、外からの人も受け入れる、新しいことへのチャレンジを応援するなど、誰でも安心して自分らしく生きられる地域の事を指すのかなと思います。





行政視察レポート

石川県珠洲市 7月3日



食料物資を届けに避難所等10か所を廻り、リーダーの方々にお話を伺ってきました。目に飛び込んでくる光景は地震発生から時計が止まったかのように壊れた家が散乱している街並み。「山崩れで家を飛び出し、命が助かったおばあちゃんの話」、「避難所になっている学校の体育館の半分で子どもたちが体育の授業をしている光景」、「避難していった人も都会に出ていった子どもたちもみんな戻ってきて欲しいと願う黄色いハンカチ」、「未来は考えられない。まちづくりの

話し合いなんか出来ない。それより今の生活を何とかしたいという言葉」、まだまだ言い尽くせないくらい印象に残りました。ただ、前向き、後ろ向きと色々な話を伺いましたが、なにより笑顔でおられたという事が救いだったかなと思いました。半年たって、炊き出しボランティアも減ってきているという事ですし、各地に仮設住宅の建設が始まっています。被災地も次の段階に入ってきている、そんな感じを受けました。黒部市と珠洲市は車で行くと約200キロと何時間も掛かる場所ですが、黒部からも海の向こう側に半島が見え、珠洲からも立山連峰が見える、遠くて近い場所。そんな「珠洲の未来」が明るくなるように、自分自身も微力ですが、少しでも復興のお手伝いが出来ればと思った時間でありました。

長野県御代田町・佐久市 7月1日～3日

御代田町は、軽井沢・小諸市、佐久市などに隣接する西軽井沢とも呼ばれている地域で1970年に約8,700人の人口だったものが現在は16,000人を超えている超人気自治体。今回の視察先はICTと行動分析学を用いたインクルーシブ教育を行っている「学校法人西軽井沢学年が運営するサムエル幼稚園・さやか星小学校」とコワーキングスペースをベースとした働く事を研究する「(株)ハタラクリエイトが運営するGokalab. (ゴカラボ)」「幼稚園・小学校」では、子どもたちの日々の生活での心の変化、成長などが一目でわかり、ひとり一人にあった教育を実践。子ども達をひとつのものさしで評価するのではなく多様なものさしで評価するマルチものさしの考え方、学習の当たり前、評価の当たり前、子どもの対人関係構築のあたりまえを基に学んでいく様子を見させていただきました。

そして「ゴカラボ」は、地方でコワーキングスペースを運営する難しさや集まってくる人たちから新しいことが生まれ、そこから地域が変わってくる過程を教えてくださいました。



成川まさゆきの情報発信

stand.fm
黒部市の今や議員活動、地域づくり活動など日々の活動を毎日音声配信しています。

facebook
日々の活動記録を配信しています。

twitter
主に stand.fm を配信

Instagram
たまに犬と花の写真

「なりかわチャンネル」

なりかわ 黒部を未来へつなぐ

成川まさゆき



私の声を聴いてください

CONNECT KUROBE TO THE FUTURE

皆様のご意見をお気軽に是非、お寄せください!